

日本が今、 取り組むべき課題に 産学官連携で挑む

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり推進するプロジェクトだ。府省や分野の枠を超え、基礎から実用化、事業化を見据えた研究まで、産学官が協力して取り組む。

2014年に始まった第1期では、重要な社会問題の解決や、経済・産業競争力の強化につながる11の課題が選ばれ、JSTはこのうち5つを運営する管理法人の役割を担っている。今年度からは第2期の12課題も始動した。産学官や異分野の連携、明確な出口戦略やマネジメント体制など優れた特徴を維持しつつ、国際標準化やベンチャー支援などを強化し、科学技術イノベーションの創出を目指す。

11月号特集では最終年度を迎える第1期の課題から、「革新的燃焼技術」「レジリエントな防災・減災機能の強化」を紹介する。日本が直面する問題に、既存の枠を超えた研究チームが挑む。